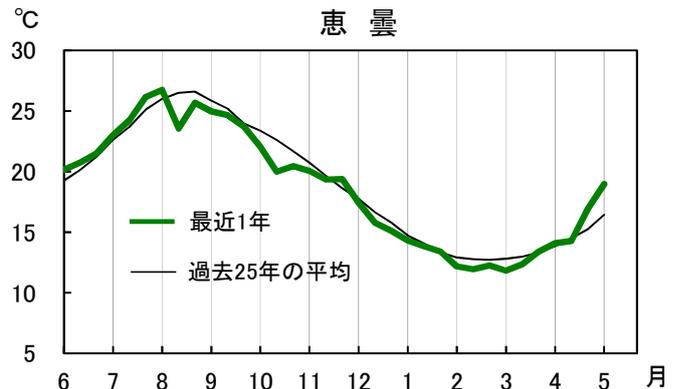
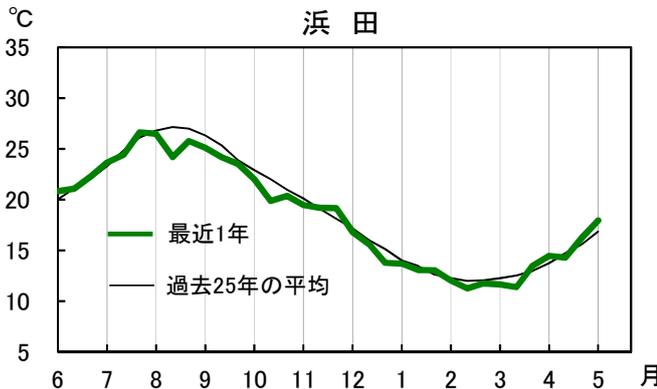




《4～5月の海況》

4月	月平均	平年差	評価
浜田	15.0℃	+0.3℃	平年並み
恵曇	15.1℃	+0.6℃	やや高め

沿岸定地水温は、浜田地区では4月は上旬が「やや高め」、中旬が「平年並み」、下旬は「やや高め」でした。5月に入り上旬時点で「かなり高め」で経過しています。一方、恵曇地区では4月は上・中旬は「平年並み」でしたが、下旬は「はなはだ高め」に急転し、5月に入り上旬時点で同様に「はなはだ高め」で経過しています。



《4月の漁況》

【中型まき網漁業】

浜田地区ではサバ類、マアジ主体の漁況で、1統1航海当りの漁獲量は平年を上回りました。マアジは162トンで平年並みでしたが、サバ類は372トンで平年の6.8倍となりました。西郷地区、浦郷地区ではマイワシ、マアジ主体の漁況で、1統1航海当りの漁獲量は平年並みとなりました。主体であるマイワシは西郷で2,981トン、浦郷で1,831トンとそれぞれ平年並み、マアジは西郷で1,426トンと平年の8.5倍、浦郷で483トンと2.8倍の漁獲でした。カタクチワシは西郷で622トン、浦郷で166トンとそれぞれ平年の2～3割の漁獲でした。

【イカ釣漁業】

浜田地区(属地5トン以上)ではスルメイカ(全体のほぼ100%)主体の漁況で、1隻1航海当りの漁獲量は243kgで平年を下回りました。一方、西郷地区(属人5トン以上)ではスルメイカのみ漁況で、1隻1航海当りの漁獲量は128kgで平年並みでした。

【沖合底びき網漁業】

浜田港ではキダイ主体で、1統1航海当り漁獲量は12.8トンで平年を上回りました。キダイ、ケンサキイカ、アカムツがいずれも平年の約1.6倍の水揚げがあり、ムシガレイ、スルメイカ、アンコウはほぼ平年並みでした。一方、マフグは平年の4割、ソウハチおよびアナゴ・ハモ類はいずれも平年の6割の水揚げに留まりました。

【小型底びき網漁業】

和江地区、久手地区のいずれもソウハチ、ニギス主体の漁況でした。1隻1航海当りの漁獲量は、久手地区は734kgと平年並みでしたが、和江地区は721kgで平年を下回りました。久手地区ではソウハチ、ニギス、ヒレグロは平年並みでしたが、和江地区ではニギスは平年の2.1倍だったものの、ソウハチ・ヒレグロは平年の5～6割と低調でした。また、ムシガレイは久手地区で平年の8割、和江地区で平年並みでした。アンコウは両地区とも平年の8割でした。

【定置網漁業】

石見地区ではマアジ主体の漁況で、1統当りではマアジが平年の4.8倍で全漁獲量のほぼ9割を占め、全統の総漁獲量は91トンで平年の1.6倍でした。出雲地区ではマアジ、ブリ主体の漁況で、1統当りではマアジが平年の2.3倍だったものの、ブリは平年の8割に留まり、全統の総漁獲量は17トンで平年並みでした。隠岐地区ではブリ、マアジ主体の漁況で、1統当りではブリが平年の5.1倍、マアジが3.3倍で全漁獲量のほぼ8割を占め、全統の総漁獲量は172トンで平年の2.4倍でした。

【釣・縄】

出雲地区ではブリが主に漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は47kgで平年並みでした。石見地区ではブリ、ヒラマサが主に漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は22kgで平年を下回りました。隠岐地区ではブリ、カサゴ・メバル類、スルメイカが主に漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は28kgで平年並みでした。

【平成 27 年 4 月の漁獲統計】

漁業種類	水揚港	主要魚種	総漁獲量			CPUE(1隻(統)1航海当り漁獲量)			漁模様
			漁獲量	前年比 %	平年比 %	漁獲量	前年比 %	平年比 %	
中型まき網	浜田	サバ類、マアジ	582トン	111%	154%	27.7トン	143%	151%	◎
	西郷	マイワシ、マアジ	5,323トン	96%	89%	85.9トン	134%	91%	○
	浦郷	マイワシ	2,529トン	137%	89%	63.2トン	223%	101%	○
イカ釣り (5トン以上)	浜田	スルメイカ	3トン	2%	6%	243kg	62%	58%	▲
	西郷	スルメイカ	13トン	25%	92%	128kg	61%	120%	○
沖合 底びき網	浜田	キダイ、ムシガレイ、ケンサキイカ	269トン	91%	93%	12.8トン	100%	111%	◎
小型 底びき網	久手	ソウハチ、ニギス	134トン	71%	87%	734kg	97%	100%	○
	和江	ソウハチ、ニギス	230トン	76%	76%	721kg	99%	83%	▲
定置網 (大型)	浜田	マアジ	36トン	3179%	946%	1.9トン	335%	529%	◎
	美保関	マアジ	70トン	90%	104%	694kg	97%	107%	○
	浦郷	ブリ、マアジ	87トン	113%	254%	3.4トン	118%	259%	◎
釣り・縄	仁摩	ブリ、カサゴ・メバル類	4トン	27%	27%	22kg	58%	55%	▲
	大社	ブリ	27トン	41%	58%	55kg	76%	80%	▲
	西郷	カサゴ・メバル類、スルメイカ	2トン	18%	34%	26kg	55%	93%	○

平年比：過去5年（沖底のみ10年）の平均値との比較 漁模様（CPUE）：◎が平年以上、○が平年並み、▲が平年以下

本年の漁獲量が0Kg(ほぼ0Kg)のものは全てを－、前年の漁獲量が0Kg(ほぼ0Kg)のものは前年比を－、平年の漁獲量が0Kg(ほぼ0Kg)のものは平年比を－とした

【ケンサキイカ情報】

発行日：平成27年5月19日

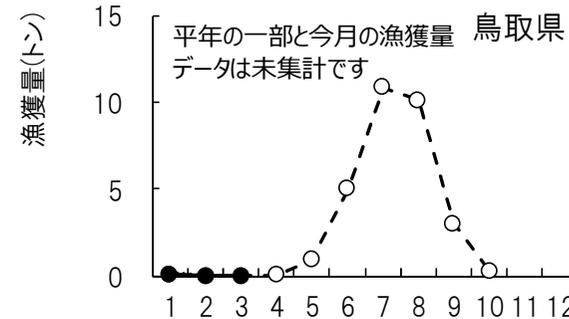
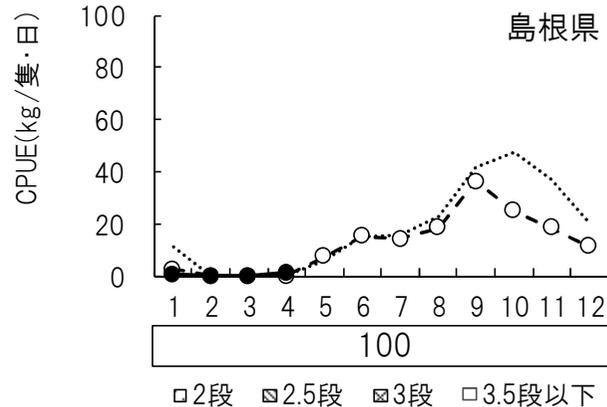
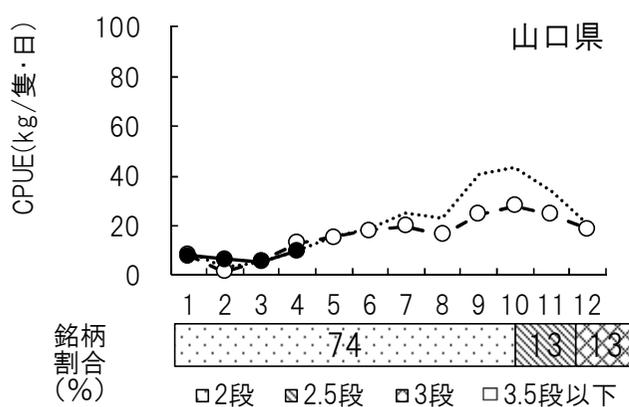
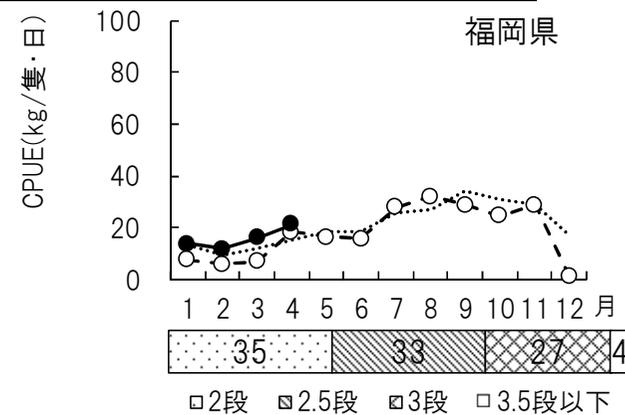
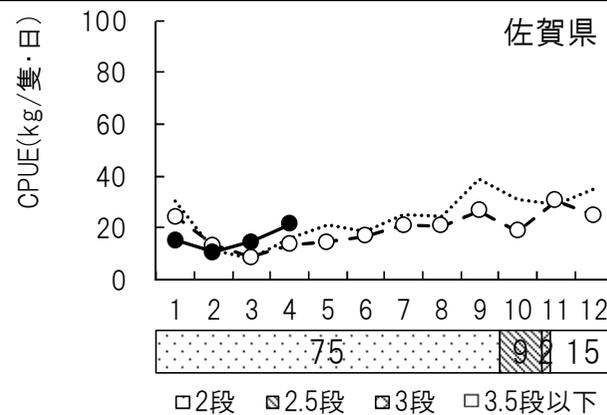
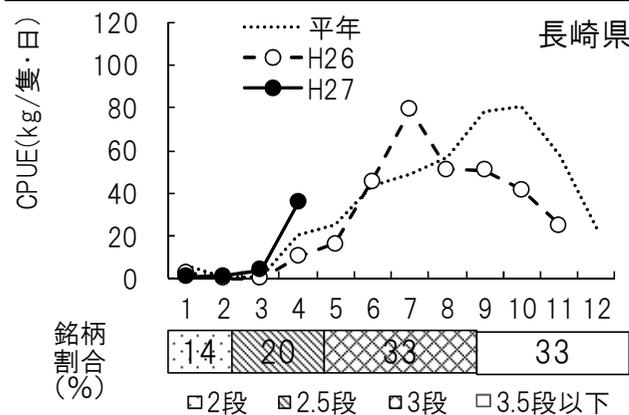
今月号から長崎県、佐賀県、福岡県、山口県、島根県、鳥取県の6県で共同発行しているケンサキイカ(地方名:マイカ、シロイカ)の情報(各地の漁況と底層水温)を再開します。

I：4月のイカ釣り漁況

これらの情報は各県の主要漁港データを利用しています。折れ線グラフは漁獲量もしくはCPUE、棒グラフは銘柄割合を示しています。

山口県以西では平年を上回る漁況で、島根県、鳥取県ではまとまった水揚げはまだのようです。各県の状況は以下のとおりです。

長崎県	標本漁港の水揚げ量は、前年、平年を上回りました(前年比5.7倍、平年比11倍)。	佐賀県	標本漁港の水揚げ量は、前年、平年を上回りました(前年比191%、平年比153%)。	福岡県	代表港の4月のCPUEは平年比138%とやや好調、漁獲量は前年比184%、平年比203%と好調でした。また1~4月の累積漁獲量は前年比293%、平年比164%と3月から引き続き好調に推移しています。
山口県	代表港の漁獲量は前年をやや下回り、平年をやや上回りました(前年比74%、平年比129%)。	島根県	シーズンオフのため、主要7港のケンサキイカの水揚げ量はわずか47kgでした(前年比115%、平年比228%)。	鳥取県	現在の所、鳥取県沖ではほとんど漁獲されていません(4月漁獲量は未集計)。



※平年は過去5年(H22~H26)の平均値

Ⅱ：5月上旬の底層水温

長崎県	今月は観測を行っていません。	佐賀県	壱岐水道は15.8～16.3℃で平年並み、対馬東水道は14.9～15.8℃で平年よりやや低めでした。	福岡県	沿岸域は17℃台で平年よりやや高め、沖合域は14～16℃台で平年並みとなっています。
山口県	底層水温は12～15℃台でほぼ平年並みでした。	島根県	島根県沖の陸棚上の底層水温は、水深80～140mが13.9～14.6℃、それ以深が2.8～5.8℃でした。	鳥取県	水深100m前後の底層水温は10～14℃でした。

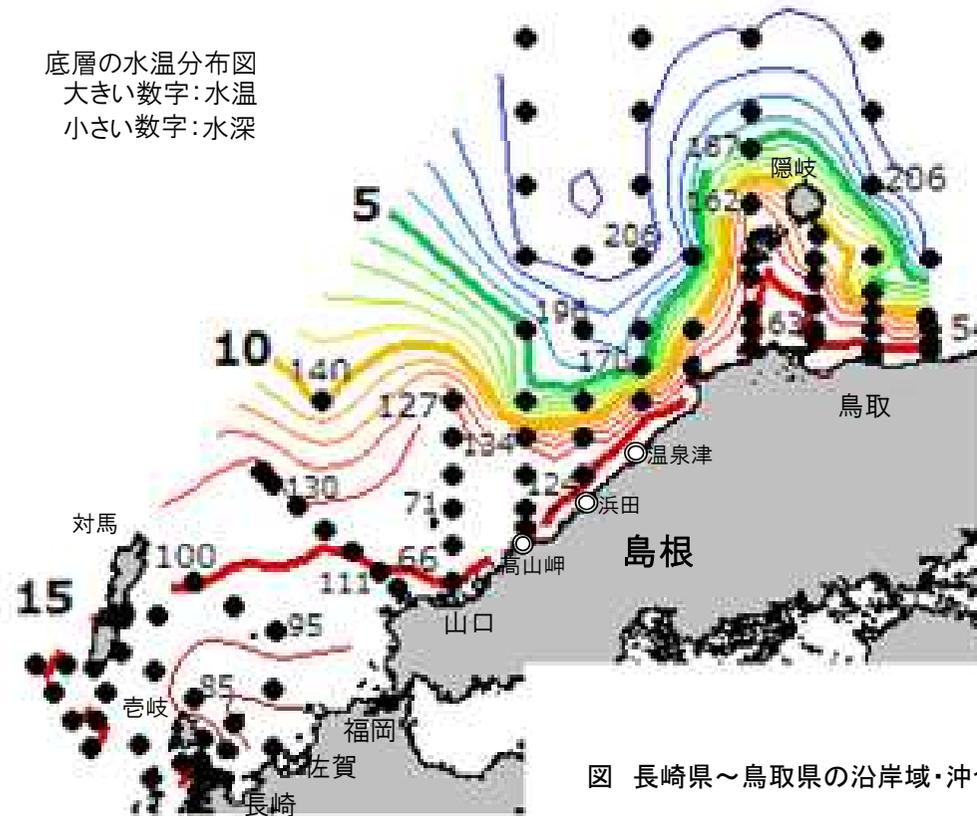


図 長崎県～鳥取県の沿岸域・沖合域における底層の水温分布図